

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	雨水活用推進小委員会		主 査 名：笠井 利浩 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：西川 豊宏
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雨水活用による減災技術・事例調査</li> <li>・ シンポジウム開催</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有り		
	主査：笠井利浩 (福井工業大学) 幹事：福岡孝則 (東京農業大学)、屋井裕幸 (雨水貯留浸透技術協会)、大西和也 (雨水貯留浸透技術協会) 委員：神谷博 (法政大学)、村川三郎 (広島大学名誉教授)、小川幸正 (雨水市民の会)、辛勇雨 (千代田化工建設)、森孝 (三栄水栓製作所)、尾崎昂嗣 (秩父ケミカル)、向山雅之 (竹中工務店)、笹川みちる (雨水市民の会)、斉藤真紀 (ウェザーニューズ)、宋城基 (広島工業大学)、摺木剛 (丸一)		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2018 年度予算	69,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：無し	

項 目	自己評価
委員会開催数	11 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	当初の委員会開催計画 (12 回) に対し、月 1 回の委員会をほぼ継続的に実施している。関連の団体、個人との交流や情報交換を行うと共に、委員会内で取り組んできた雨水関連データベースの構築が進んでおり、概ね順調に活動は進んでいる。また今年度は、雨水活用建築 GL 改訂小委員会との連携頻度が高く、委員会内で議論した内容が学会基準の改定に役立った。
委員会活動の問題点 ・ 課題	水環境運営委員会内の小委員会には、取り扱う内容の共通点が高い委員会があるため、今後連携を密にして活動を行いたい。また一方で雨水活用の普及には時代に合った取り組みが必要であり、そのためにも若い委員の参画が望まれる。

## 2018 年度 小委員会活動 自己評価

## (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本委員会の設置目的は、「AIJES 雨水活用建築ガイドラインや AIJES 雨水活用技術規準を基に、建築における雨水活用の技術開発と普及を目指す。」ことであり、この目的を達成するための様々な活動を行ってきた。4年間の設置期間中、ほぼ毎月計 46 回の委員会を開催し、雨水活用の普及に向けた議論を重ねた。また、3 回の下記水環境シンポジウムを雨水活用建築ガイドライン改定小委員会と共催する等して開催し、学会会員の他一般市民に対しても雨水活用について PR を行い、その普及に向けた活動を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第 39 回水環境シンポジウム 雨水活用技術規準の策定と雨水法制定 2015/9/27</li> <li>第 40 回水環境シンポジウム 市民のための蓄雨とグリーンインフラ 2017/2/25</li> <li>第 42 回水環境シンポジウム 雨水活用建築ガイドラインの改定と雨水活用の最新情報紹介 2018/3/8</li> </ol> <p>一方、その他の委員会内の活動として、まち単位での自然を生かしたグリーンインフラストラクチャーの構築や雨水活用による治水、利水モデルを構築するための基礎資料として、現在国内で行われている雨水活用事例や過去の雨水関連文献の収集およびデータベース化に取り組んだ。</p> <p>本委員会設置期間の後半では、前述の雨水活用建築ガイドライン改定小委員会とも情報共有を密にし、本委員会で議論した内容を学会基準の改定に盛り込んだ。</p> <p>以上の事から、本委員会の 4 年間の活動が「雨水活用の普及啓発を推進し、これによって、水循環の健全化に寄与する。」委員会設置目標達成につながったと考える。また、次年度以降は新たに「あまみず普及小委員会」として幅広い専門の委員構成でより一般社会への雨水活用の普及に向けた方策を模索するとともに活動を行う予定である。この新委員会の設置についても本委員会の一つの成果と捉え、次年度以降も継続的に雨水活用の普及に向けた活動を行ってゆく。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。